

令和2年度第2回大磯町総合計画審議会結果概要

○日時 令和2年7月6日(月)午後1時から午後3時まで

○場所 大磯町保健センター2階研修室

○出席者(会長) 成田委員(学識経験者)

(委員) 山岡委員(学識経験者)、長嶋委員(教育委員会)、
戸塚委員(農業委員会会長)、西ヶ谷委員(区長連絡協議会会長)、
小林委員(社会福祉協議会副会長)、佐藤委員(商工会理事)、
大倉委員(観光協会会長)、奥野委員(消防団団長)、
小清水委員(中南信用金庫常勤理事)、名久井委員(柵湘南ジャーナル社)
尾白委員(東海大学非常勤講師)、船瀬委員(公募町民)

○事務局 参事(政策担当)、政策課長、政策課担当職員

○傍聴者 5名

○議題 (1) 大磯町第五次総合計画基本構想(素案)について

○会議記録

1. あいさつ

(会長より次のとおりあいさつ)

本日の議題は1点で、前回の審議会で諮問された第五次総合計画基本構想の素案について、第1回審議会での意見やパブリックコメントでの意見等を受けての修正箇所について、事務局より説明がある。その後、当審議会の意見を答申書としてまとめていきたい。委員の皆さんにおいては、忌憚のない意見等をお願いしたい。

2. 議事

(1) 大磯町第五次総合計画基本構想(素案)について

資料1に基づき第五次総合計画基本構想(素案)について事務局から説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答が行われた。

◎ 昨今の新型コロナウイルスのまん延等に伴う在宅勤務やリモートオフィスの推進の動きが見られるが、その動きの受け皿として大磯は非常に魅力的であると考え。また、二酸化炭素の排出を削減するような生活も求められている。この両面があれば大磯はより魅力的になると考える。P2の「つながりと創生」の中の「住んでみたい、いつまでも住み続けたい」という部分について、「働くにもよい」という意味で「住む」だけではなく「住み働きたい」等の住みながら働ける場所としてアピールするような文言があればよい。大磯は、ITや情報分

野の方が働くには適していると考えます。(委員)

- ◎ これについて、同意見である。在宅で働くという選択肢があることは素晴らしく、言っていることは正しいと考える。(会長)
- ◎ 私も同様に感じた。それに関連して、町のパブリックコメントを見ると、あまりにも抽象的な表現しかないことはよくないのではないかと指摘もあった。これらを見ても、もう少し我々の意識もこのコロナに影響された現状において、この町の将来像も見直す必要があるのではないかと。(委員)
- ◎ これからの時代は予測できない天災が起こり、対応に追われるケースも考えられる。総合計画は、ある程度抽象的になっても仕方ないと考えます。総合計画の下位計画については、臨機応変に現実味のある、町民のためになる計画にする必要がある。そのような意味では基本構想は憲法のようなもので、基本計画の段階で具体的な内容について記載する多層構造にすれば、変化に対応できるのではないかと。(委員)
- ◎ 同意見である。柔軟性について重要になってくると考える。(会長)
- ◎ 生活様式が大きく変化する中で、デジタルやITも目覚ましく進化しているが、それに反してアナログ的な、環境やSDGsといったものを意識した生活様式とのバランスが大事である。小中学校の教育も同様に、今後、高度情報化教育に対応できない生徒が出てくるのが心配されており、アナログ的にフォローする体制の整備等のバランスが大事である。(委員)
- ◎ 「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」と情報化とは矛盾していないと思う。個々の働く人が情報化のスキルを持っていて、そういう人達が大磯の環境の中で働く、生活することを促進していくことが重要であり、町の将来像が時代遅れであるという事はないと考える。(会長)
- ◎ 議事進行のために素案の部分を意見していると思うが、ページごとに進行せず、ある内容のみで話を続けるとその話題だけで終わってしまう。現在は素案の検討であるので、詳細の内容については、今後具体的に記載する計画が出てくると考えるので、そこで話す内容であると考えます。表現を変えるべきであれば変える、そのままでもよければそのままでもよいと考える。(委員)
- ◎ 5ページの柱Ⅱの「開かれた町政と情報化の推進」の内容の下2行分「また、町民と行政、それぞれが持つ得意分野を生かし、協働によるまちづくりを推進します。」は、1つ上の「交流と協働のまちづくりの推進」に該当するのではないかと考えられ、既に同様の内容が示されているように思える。また、8ページの柱Ⅴの「賑わいと元気・活力あるまちづくり」の「賑わい」という表現について、

個人的には気にならないが、このコロナ禍で「賑わい」という表現は「人が集まっている状態」を推進しているように見られると、町にとって不利益を与える可能性があると感じる。いずれは賑わいを提供し始める必要があるが現段階ではどうかと考える。「元気・活力が生まれるまちづくり」のような表現としても意味は伝わると思うので、御議論いただきたい。(委員)

- ◎ 確かにこのコロナ禍で「賑わい」という単語はネガティブな印象を与える可能性があり、「柱」として記載するとマイナスになる可能性がある。(会長)
- ◎ 「賑わい」が無いと表現的にインパクトが無いのではないか。これらは一種の言葉遊びのようなものであると考える。(委員)
- ◎ 「賑わい」は現在のコロナ禍で発信する表現としては、少し抵抗があるのではないかという意見だと考える。(委員)
- ◎ 平時での「賑わい」という言葉には好感を持っているが、今後 10 年間使われるものでもあり、5年後 10 年後は状況がまた大きく変わると考える。現時点で「賑わい」という単語を使用することについて議論いただけるとよいと思う。(委員)

資料 2-1 に基づき第五次総合計画基本構想（素案）に対する答申書の構成案について事務局から説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答が行われた。

- ◎ 「素案全体に対する総括」の内容について、枠内の文章の 2 行目後半から 4 行目にかけて記載のある「社会情勢や町民等の意見が十分に考慮されており、その内容はおおむねふさわしいものと評価し」という表現は、意見が十分考慮されているのであれば「おおむね」を削除してもよいのではないか。(委員)
- ◎ 前半の「社会経済情勢や町民等の意見が十分に考慮されており、」と後半の「その内容はおおむねふさわしいもの」とで文が分かれており、「町民等の意見」については、「十分」考慮されており、「素案の内容」については「おおむね」ふさわしいという表現なので、問題ないと考える。(委員)
- ◎ 同様の認識であるので、問題ないと考える。(会長)

資料 2-2 に基づき第五次総合計画基本構想（素案）に対する答申書の意見の集約（案）について事務局から説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答が行われた。

- ◎ 【あらゆる主体の力を生かすまちづくり】の中で「連携」という言葉が使われているが、基本構想の中では「協働」という言葉を大事に使っている感覚がある

ので、力を合わせるという意味も含まれる「協働」の方がふさわしいのではないか。(委員)

◎ 「協働」にするのであれば、「その活力を生かせるよう留意されたい」の主語がわかりにくいので、主語を出すほうがよい。(委員)

◎ 「連携・協働」として答申書(案)を一度作成してみて、確認することとする。(会長)

◎ 【まちの将来像について】の1点目の「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」の実現に向けて着実に」とあるが、どのように進めるかが書いてない。キャッチコピーとしては良いと思うが、抽象的でよいのか。2点目に書いてある「自然や歴史・文化といった特色を磨き上げるとともに、」はかなり具体的に書いてあると思う。(委員)

◎ 「実現に向けて」では、これまでの総合計画で取り組んできていて実現していないとも捉えられかねない。また、1点目と2点目で文章が分かれていると異なる命題について言っているように見える。2点目と1点目の関係が分かるように、答申書(案)を一度作成してみて、確認することとする。(会長)

◎ 【社会経済情勢について】の内容について大変困難なことが記載されているが、実現できるか。また、「柔軟に適應できる実施体制を構築する」のは誰か。(委員)

◎ 想定を超えるような事態にも柔軟に適應できる実施体制を構築することは大変重要であると考え。(会長)

○ 資料2-2で見ていただいている内容については、資料2-1の下部に入ることと想定して作成しているので、主語については、「町」と考えていただきたい。(事務局)

◎ このような厳しいことを書いてしまっていてよいか。(委員)

◎ あくまで要望であり、厳しく表現することには問題無いと考える。(委員)

事務局にて本日の審議内容を反映して作成した答申書(案)(別添1)を各委員に配布し、内容確認を行った。

◎ 要望事項の3点目・4点目の文末は「～されたい」となっているが、その他の項目に合わせて「～すること」にそろえてはどうか。(委員)

◎ 特に異議がないようなので、提案のとおり修正し、答申書として決定する。(会長)

3. その他

事務局から次回の総合計画審議会について事務連絡を行った。

[会議終了後、会長から中崎町長に答申書（別添2）に基づき答申を行った。]

以上